

第6学年 道徳学習指導案

い組 男子17名 女子19名 計36名
指 導 者 福 留 忠 洋

1 主 題 名 広い心で

2-(4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすること。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、学校や学級での生活の中で、相手の気持ちをよく理解することの大切さや、お互いを思いやることで心地よい人間関係を築けることの大切さを理解してきている。また、学校や学級の中で、よりよい人間関係を築くために自分の意見をもつことや友達の意見や行動を尊重にしていくことが大切であることも理解し行動しようとしている。しかし、自分の意見をもちながら、相手とのよりよい人間関係を築くためには、時には自分と異なる意見や立場を受け入れることが必要だと理解しているにもかかわらず、自分本意な考えや自己保身から、謙虚な心で自分と異なる意見や立場を受け入れることができないこともある。このようなことから、この期の子どもたちに、自分を謙虚に見ることや相手の立場に立って考えることの大切さに気付かせ、相手の過ちなどに対しても広い心で受け止めようとする態度を育てる必要がある。

本主題では、相手の過ちを広い心で受け止め、許すことができなかつたりする場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、相手の立場を考えることの大切さを理解し、自分に謙虚になり、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしていこうという気持ちを大切にすることの大切さを育てることをねらいとしている。さらには、自分に謙虚になり、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることのよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぼうとする生き方を深く追究していく学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることは、自分と違った考えや相手の過ちを受け止めたり、相手の立場に立って考えたりすることであるととらえることができる。

ここでは、相手の意見や立場を尊重し、多様なものの見方や考え方があることを理解し、広い心を持ち、謙虚に調和的に生きたいという願いの基に、自分に謙虚になり、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしていこうとする生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。具体的には、自分に謙虚になり、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にす



◎は重点的な学習内容

ることで、自他共に快い感情になれることや他者と人間関係が深まること、さらには互いを認め合い、信頼し合う社会を築いていけることにつながることを理解させる。また、それらの実現に必要な心構えとして、「相手の立場を理解する」「自分に置き換えて考える」「相手の意見を受け入れる」ことも理解させる。そして、これらの意義や心構えを深めたり広げたりするために、自分に謙虚に、広い心で生活したいという気持ちをもちながらも、自分本意な考えや自己保身から、なかなか実践できないことについても理解を深めたり広げたりする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「あやまってすむことじゃない」（光文書院）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

主人公のたけしは、楽しみにしていた外食先が店員の過ちで予約されていないことが分かり気を落とし、心の中で「謝ってすむことじゃない。」と憤る。しかし、自分も「謝ってすむことじゃない」と言われた経験を思い出し、自分も同様な経験をしたことから店員の立場を理解し、許すことができたというという粗筋である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせたりしながら関係付けて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず自ら立てた課題を追究するために、資料の一読後の感想から、主人公の家族が予約していたレストランを、お店側の間違い予約できていなかった場面に焦点化させる。次に、主人公がお店側の間違いを許そうと感じた背景（意義・心構え）について、相手の立場を理解したり、自分と置き換えて考えたりする気持ちを自分の生活場面と関係付けたり、他の見方・考え方・感じ方と比較させたりする場を設定する。その際、ここでの道徳的価値にかかわる意義や心構えについて多面的にとらえさせ、見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりするために対話活動を取り入れる。さらに、授業の中で感じたことを自らの生活場面と関連付けて考えさせたり、今までの自分の生活と比較させて考えさせてまとめたりすることを通して、生活場面での意欲や態度を高めるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶことを目指す生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることにかかわる感情や実践を阻む心の弱さ、実践を支えるための心構え、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）に対する認識は、以下の通りである。

[表1] 広い心に対する捉え（総反応数45）とそれらに対する感情（総反応数49）

| 広い心の捉え | 反応数(人) | それらに対する感情 | 反応数(人) |
|-----------------|--------|-------------|--------|
| 友達等へ席などをゆずること | 26 | 相手が喜んでよかった。 | 26 |
| 相手をゆるすこと | 15 | 相手が理解してくれた。 | 15 |
| 自分の考えとの違いをゆるすこと | 4 | わかり合えた喜び | 4 |
| | | うれしい気持ち | 4 |

[表2] 実践を阻む心の弱さについての認識 総反応数(41)

| 心の弱さ | 反応数(人) | 心の弱さ | 反応数(人) | 心の弱さ | 反応数(人) |
|--------------------|--------|--------------------|--------|---------------|--------|
| 労苦からの逃避 (疲れている) | 12 | 自己保身 (嫌なことをされた) | 10 | 立腹 (怒っている) | 10 |
| 思慮不足 (どうにかなる) | 5 | 無関心 (相手を理解できない) | 4 | | |

[表3] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）（総反応数47）

| 見方・考え方・感じ方 | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方 | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方 | 反応数(人) |
|---------------|--------|------------|--------|-------------|--------|
| 相手のことを考える | 14 | やさしい気持ちをもつ | 11 | 相手のことを受け入れる | 9 |
| 相手のよいところを見つける | 7 | 感情的にならない | 4 | 自分に置き換える | 2 |

[表4]実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）（総反応数108）

| 見方・考え方・感じ方 | | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方 | | 反応数(人) | 見方・考え方・感じ方 | | 反応数(人) |
|-------------|------------|--------|-------------|---------|--------|----------------------------|-----------|--------|
| 対 自 己 | すがすがしい | 20 | 対 他 者 | うれしくなる | 15 | 対 集 団 ・ 社 会 | よりよい集団になる | 14 |
| | うれしい | 15 | | 信頼できる | 10 | | お互いを信頼できる | 10 |
| | 人間関係が深まる | 5 | | 穏やかになれる | 5 | | 安全に暮らせる社会 | 8 |
| | 感謝の気持ちをもてる | 2 | | 仲良くなれる | 4 | | | |

[表1]から広い心について、「相手にゆずる」「相手をゆるす」等と捉えていたり、相手が快く感じることに喜びを感じたりする子が多い。しかし、自分を省みたり、自分に置き換えて考えたりして相手の意見や立場を受け入れようと捉えている子どもは少ない。また,[表2]から「つかれている」「嫌なことをされた」「怒っている」などといった感情から、自分にも同様な過ちがあったり、相手の立場を理解してはいるものの、それらの気持ちをもって広い心で相手の意見や立場を大切にすることができなかつたりすると考えられる。さらに,[表3]からは、「相手のことを考える」「やさしい気持ちをもつ」という心構えの大切さを感じている子どもが多いが、「自分と置き換える」といった心構えを大切にしている子は少ない。[表4]からは、「すがすがしい」「相手が喜ぶ」「よりよい集団になる」という意義を感じている子どもが多いことが分かる。そこで、「自分と置き換えて考える」などの心構えや「相手が喜ぶ」「よりよい集団になる」などの意義を十分に関連付け考えさせたり、相手の立場を受け入れることのできない心の弱さを対比的に考えさせたりして、自分と置き換えて考えることや相手の立場を理解することや認め合えることよさを重点的に考えさせていく。

一方、道徳の時間においては、本学級の子どもたちは、登場人物の心情やその背景と自らの生活場面を関連付けてとらえることはできるが、それらを生活経験の異なる子どもと積極的に交流し、自らの道徳的価値に対する見方・感じ方・考え方を深めたり広げたりしようとするまでは至っていない。そこで、道徳的価値のもつ意味を主人公や自らの生活場面と関連付けて考えさせ、具体化したり、多様な見方・考え方・感じ方について生活場面において重点的に考えさせたりすることを通して、学んだことと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究するような働きかけを具体化していく。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切に生きるよさを子どもたち同士がお互いの見方等を大切にしながら主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわるよさが、これからの生き方へと連続、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、広い心や謙虚な心についての自分なりの捉えを他の見方等と比較して考えさせることで、子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させ、主人公の行為のもつ道徳的価値観について追究させるために、店側の間違いから店の予約ができていなかった場面に焦点化し、それぞれの立場における見方等を基に、他の意見と比較させる。次に、ねらいとする道徳的価値観について考えさせるために、対話活動を行う。その際、焦点化した際に表出させたそれぞれの見方等を基に、子ども自らの生活場面での道徳的価値観とねらいとする道徳的価値とを比較しながら、その道徳的価値観が自らの生活場面で生かされているよさ（意義）について考えさせたり、自分なりの道徳的価値観を明確にさせたりする。

ウ これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、主人公の生き方や設定させた学習問題を基に自分の生き方にかかわる見方等を振り返らせる。その際、書く活動を取り入れ、自らの立てた課題に対する見方等の変容を確かめさせる。また、それらが自分のこれからの生き方の中でどのように場面で生かしていけるか考えさせる説話をを行い、期待感をもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる立場や意見を大切にすることにかかわる内容についての自分自身の生き方を見つめ、自分で決めたことは最後までやりとげようとする気持ちを高めることができる。
- イ 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる立場や意見を大切にすることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で自らの体験場面での内面と関係付けて、類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる立場や意見を大切にすることにかかわる内容について、自分に置き換えて考える、相手の立場を理解するなどの意義や心構えの大切さについて自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。

(2) 指導にあたって

意義や心構えについて追究させるために、多様な道徳的価値観を表出させ、その背景を話し合わせる。その後、「自分に不都合なら許すのは難しいのではないか。」と問い、「すがすがしい」や「認め合える」などの意義や心構えと自分の生活場面と関係付けて考えさせる。

(3) 実 際 資料名「あやまってすむことじゃない」(一部改訂)

| 過程 | 主な学習活動 | 時間 | 教師の具体的な働きかけ |
|------|---|----------|---|
| 気付く | 1 考えていきたい問題に気付く。 | (分) 8 | ○ 広い心についての自己の捉え方を明確にさせるために、自分の見方等や生活場面での経験、友達の見方等を比較させ、矛盾や疑問から問題意識を高めさせる。 |
| | 2 資料「あやまってすむことじゃない」を読み、謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることにかかわる生き方について話し合う。 (1) 「ぼく」の言動や心情、心情の変化について感想をもち、「ぼく」が店員を許した行為の背景について話し合う。 | 28 | ○ 設定した学習問題と「ぼく」が店員を許すことに至った心情の変化とを関係付けて共感的に読み取らせるために、録音CDや中心となる場面絵を基に実際の生活場面での経験を想起させる。 ◎ 「この中で一番困っているのは誰だろう。」 ○ 多様な道徳的価値観を表出させながら追究させるために、自由に相手を代えて対話しながら、「自分が悪いわけではない」「相手に責任がある」などの「ぼく」の心情と店員の行為や「どうしようもできない」などの見方等を比較しながら話し合わせる。 ○ 「自分に不都合なら許すのは難しいのではないか。」と問い、「ぼく」が相手を許すに至った「すがすがしい」「認め合える」「自分に置き換えて考える」といった意義や心構えと自分の生活場面と関係付けて考えさせる。 |
| 見つける | (2) 「ぼく」の生き方を振り返り、自分や友だちの考えで感じたことや考えたことについて話し合う。 | | ○ 道徳的価値のもつよさについての見方等を生活場面と関係付けて捉えさせるために、自分なりの考えをカードに端的にまとめさせ、互いの理由や生活場面での経験など明らかにしながら、グループで話し合わせる。 |
| 深める | 3 学習したことを振り返り、自分でやろうと決めたことは、最後までやりとげることについて、自分なりの考えをまとめる。 | 6 | ○ 新たに加わった道徳的価値についての見方等を基に、自己の生き方について振り返らせるために、自分の見方等が明確になった場面や他の見方等を振り返らせ、ノートに記入させる。 |
| 見通す | 4 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることについて教師の説話を聞く。 | 3 | ○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。 |